

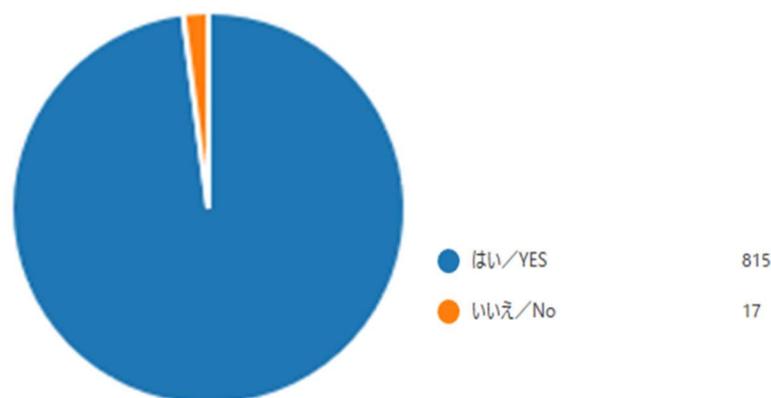
新型コロナウイルス感染症の拡大は、学生のキャンパスライフに大きな影響を及ぼしています。第1ターム（4/8～6/15）においては、緊急事態宣言を受け、すべての授業をオンラインで実施し、第2ターム（6/16～8/13）も一部の実験・実習科目を除き、原則オンラインによる授業を実施しました。第3ターム（10/2～11/30）以降は、感染防止対策を十分に講じた上で対面で行う授業を増加させているところです。

このような状況において、学生生活の実態を把握し、授業方法等の改善及び学生の心身の健康維持に必要なサポートを充実させるため、以下のとおりアンケートを実施いたしました。

### 第2タームの受講に関する調査（設問抜粋）

- ・実施期間：2020年6月11日（木）～6月15日（月）
- ・実施方法：オンライン入力フォームにより実施
- ・対象者：調査時点で本学に在籍する学生（学部生，大学院生，専攻科生，科目等履修生，特別聴講学生）
- ・回答者数：2,630名

●問1 オンライン授業を受講するためのインターネット環境が自宅にありますか。



回答のあった学生のうち98%が、自宅でオンライン授業を受講できる環境にありました。

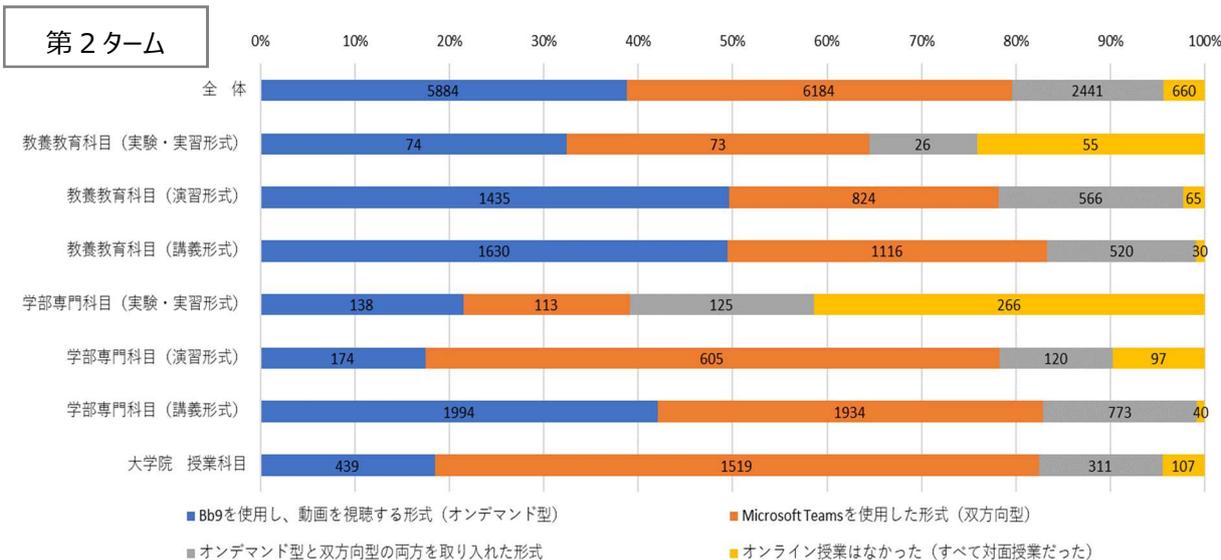
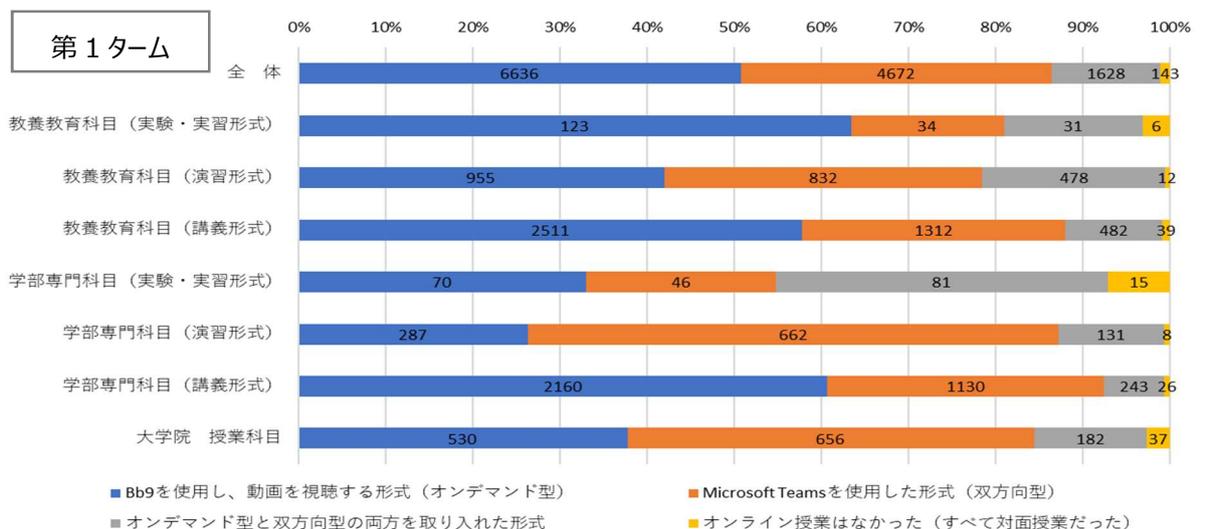
（対応）

自宅にインターネット環境がない学生に対し、無償でモバイルWi-Fiルーター（30GB/月）の貸し出しを行いました。今後も引き続き希望する学生にはルーターの貸し出しを継続します。

## 学生による授業改善アンケート（オンライン授業に関する設問抜粋）

- ・実施期間：2020年7月27日（月）～8月16日（日）
- ・実施方法：「学生情報の森 もみじ」のアンケート機能を使用して実施
- ・対象科目：第1ターム及び第2タームに開講された学士課程教養教育科目，学士課程専門教育科目，大学院課程教育科目の全科目
- ・対象者：第1ターム及び第2タームに在籍した学生
- ・回答者数：（第1ターム）のべ13,079名，（第2ターム）のべ15,169名

### ●問1 オンライン授業の形態は次のうちどれにあてはまりますか。

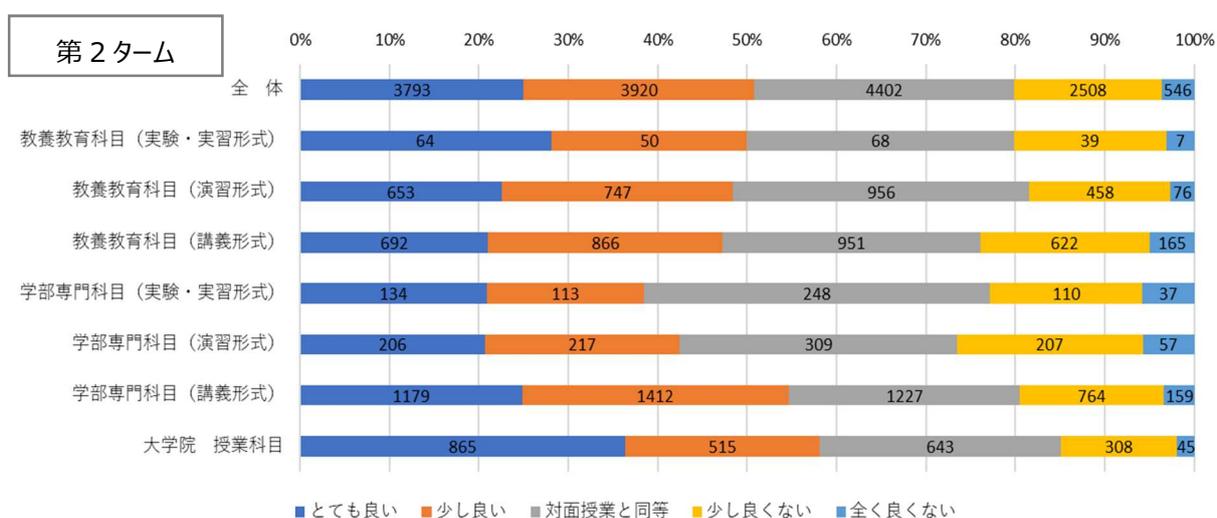
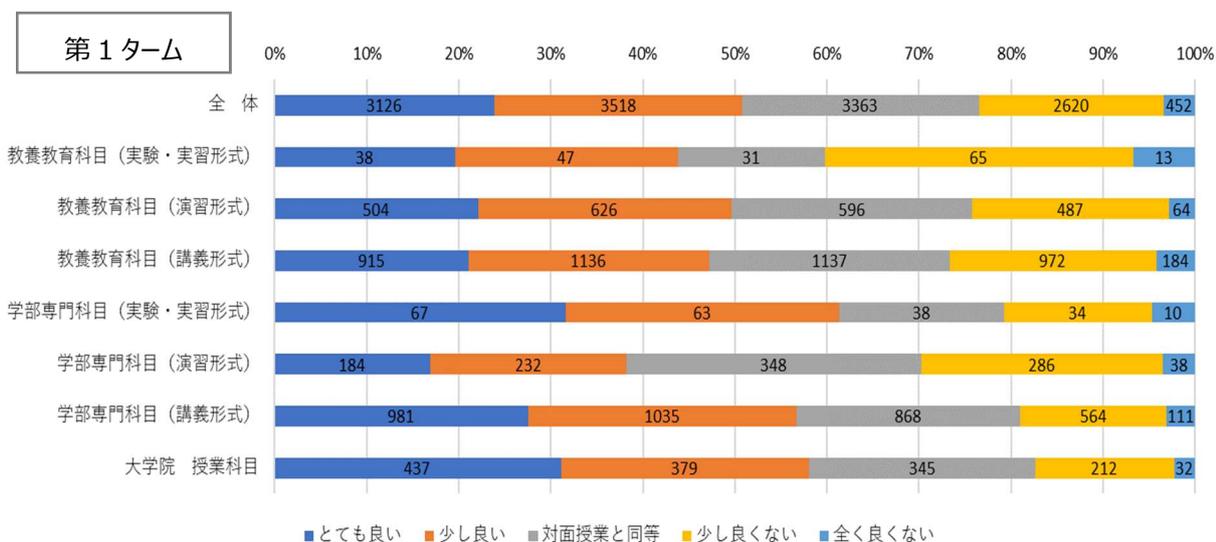


全体として、第1タームでは、「オンデマンド型」と回答した学生が51%、「双方向型」と回答した学生が36%だったのに対し、第2タームでは、「オンデマンド型」が39%、「双方向型」が41%となっており、「オンデマンド型」が減少し、「双方向型」が増加しました。

特に、教養教育科目の実験実習形式の授業では、「双方向型」が18%（第1ターム）から32%（第2ターム）へ大幅に増加しました。

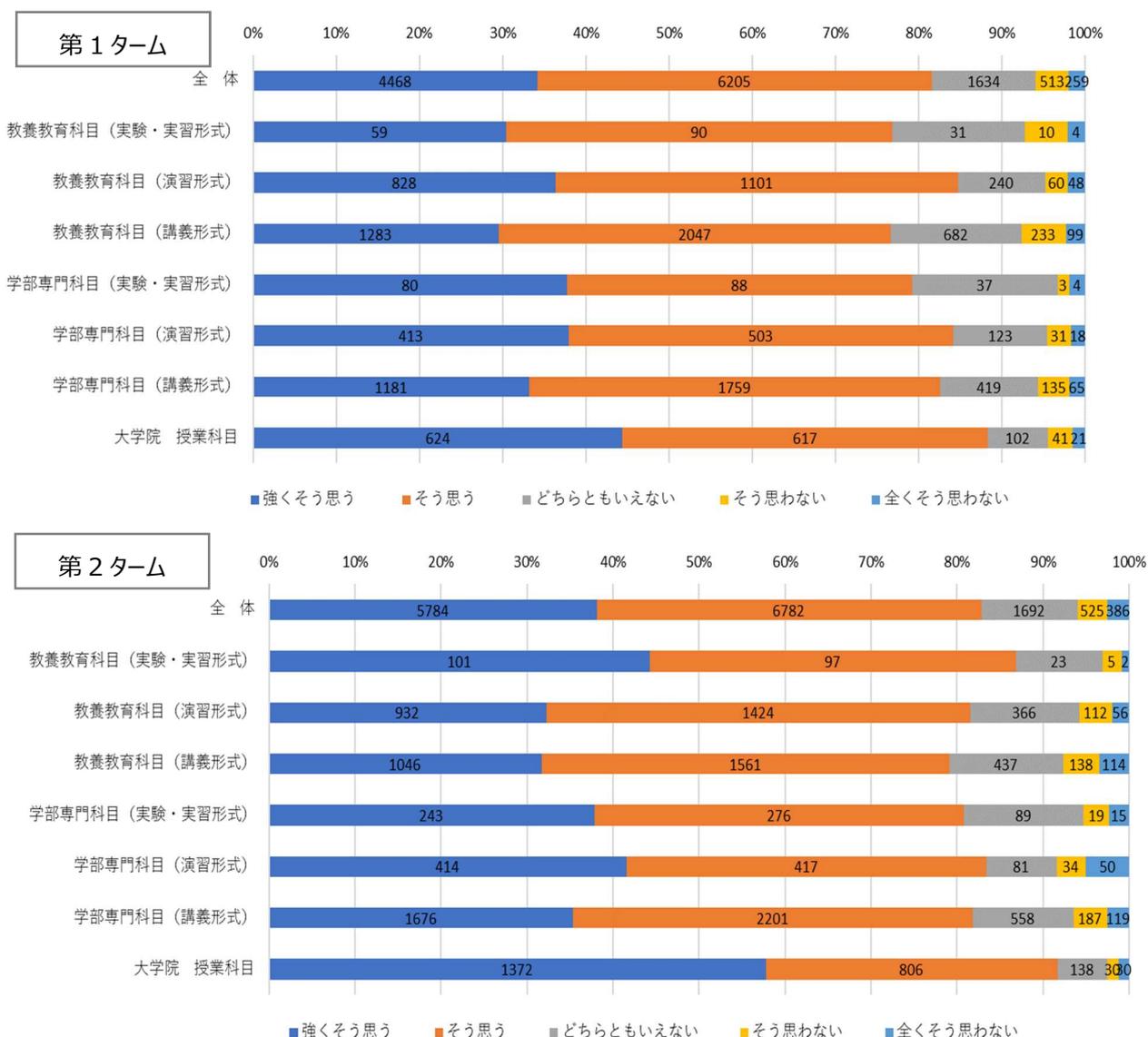
また、第2タームの実験実習形式の授業では、「すべて対面授業だった」が教養教育科目で24%、学部専門科目で41%でした。

●問2 通常の対面授業と比較して、オンライン授業はどのように感じましたか。



全体として、「全く良くない」及び「少し良くない」と回答した学生の割合が24%（第1ターム）から20%（第2ターム）へ減少しており、「対面授業と同等」と回答した学生の割合が26%（第1ターム）から29%（第2ターム）へ増加しました。

●問3 総合的に判断してこの授業に満足しましたか。



全体として、「強くそう思う」と回答した学生の割合が34%（第1ターム）から38%（第2ターム）に増え、特に、教養教育科目の実験実習形式の授業（30%→44%）や大学院授業科目（44%→58%）で大幅に増加しました。

（概要と対応）

- ・第1タームでは、オンデマンド型の授業形態が一番多かったのに対し、第2タームでは双方向型の授業形態が多くなりました。第1タームはオンライン授業が初めての教員も多く、手探りで実施せざるを得ない状況でしたが、学内での研修会の実施や経験の蓄積等により、第2タームではオンライン授業の方法や内容に関して工夫や改善が進んだものと考えられます。
- ・教養教育科目の実験実習形式の授業では、対面授業を開始した第2タームで総合的な授業の満足度において「強くそう思う」と回答した学生の割合が大幅に増加しており（第1ターム30%→第2ターム44%）、これらの授業に関してはオンラインか対面かという授業の実施形式が、満足度に影響していることが窺えます。
- ・一方で、オンデマンド型授業について「自分の都合に合った時間に学習できた」「授業動画を繰り返し視聴することができ、理解が追い付かない部分の復習ができた」、双方向型授業について「オンライン授業の方が、コメントや挙手がしやすいと感じた」など積極的に評価する意見

も多くありました。広島大学では、今後も、感染防止対策を徹底した上で、対面形式とオンライン形式を併用し、目的や内容に応じてそれぞれの特長を最大限活かした授業を展開します。

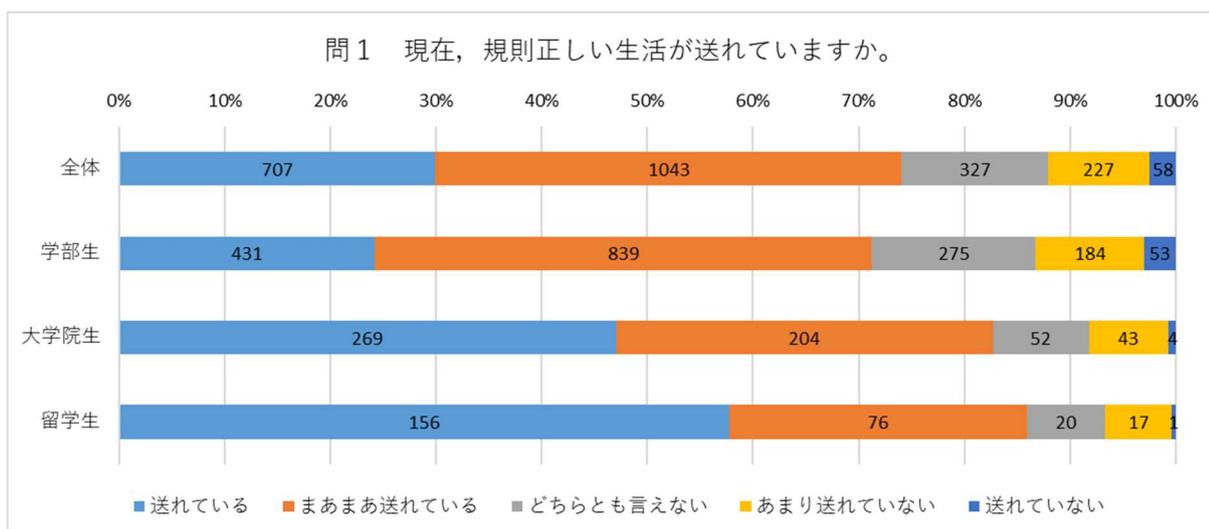
#### 学生生活に関する新入生・在学生アンケート（設問抜粋）

- ・実施期間：2020年10月1日（木）～11月4日（水）
- ・実施方法：オンライン入力フォームにより実施
- ・対象者：2020年度10月1日時点で本学に在籍する新入生・在学生  
※非正規生，離籍学生を除く
- ・回答者数：2,362名（学部生1,782名，大学院生572名，特別専攻科生8名，留学生270名（内数））

※ 以下の調査結果のデータについて，構成比は小数点以下第2位を四捨五入しています。

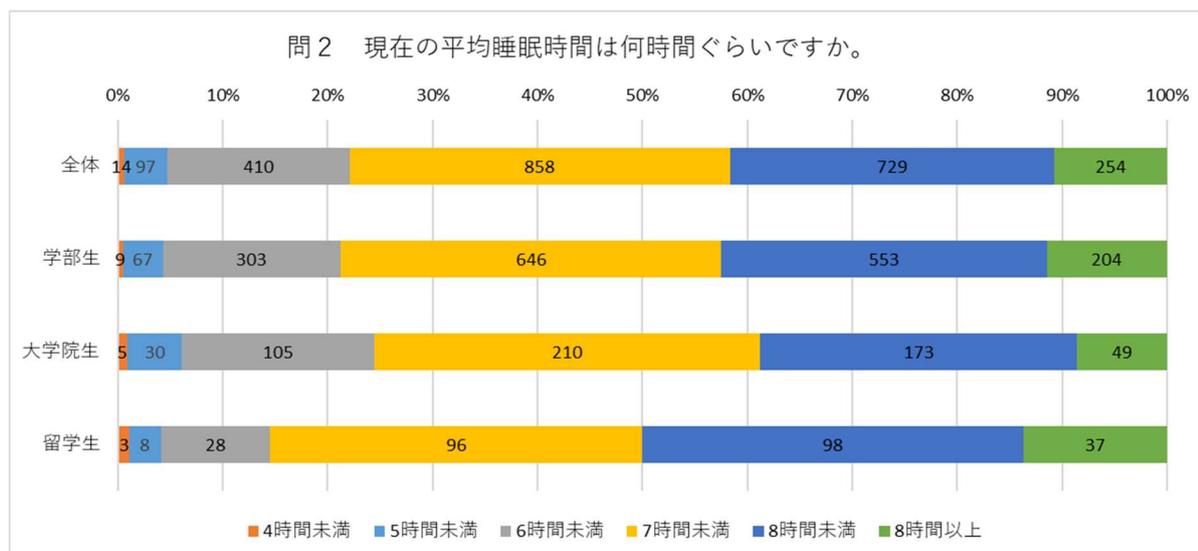
※ 留学生は内数です。

#### ●問1 現在，規則正しい生活が送れていますか。



「送れている」，「まあまあ送れている」と回答した学生が74%，「あまり送れていない」，「送れていない」は12%でした。全体としては，生活時間の乱れがある学生は限定的と考えられます。ただし，大学院生，留学生に比べて，学部生に規則正しい生活が「送れている」学生の比率が低くなっています。

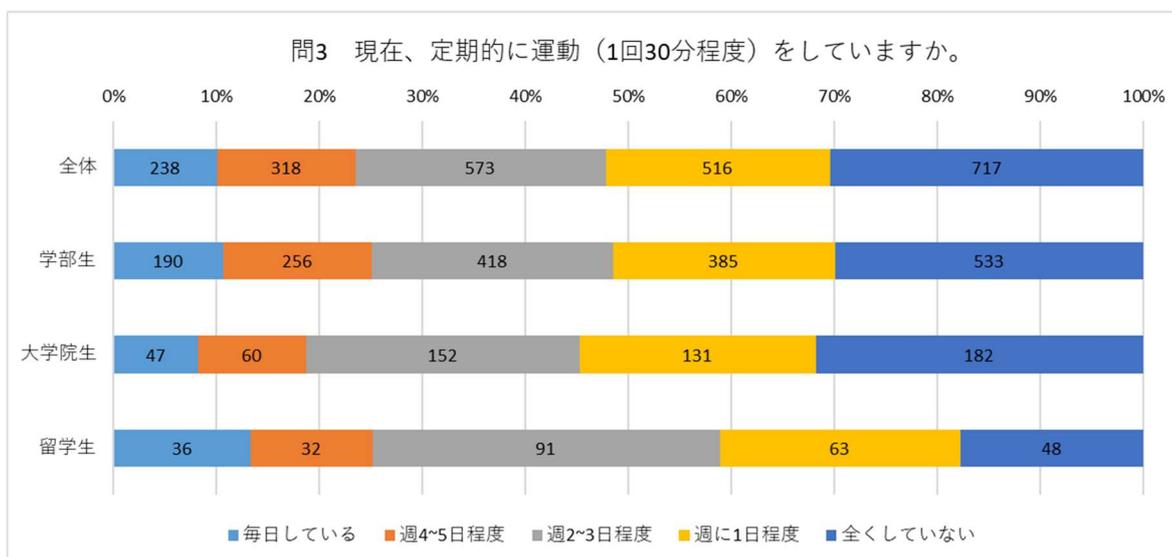
●問2 現在の平均睡眠時間は何時間くらいですか。



「6～8時間」の回答が最も多くなりました。「学生の健康白書」(注)では、大学生の平均睡眠時間は男性 6.50 時間、女性 6.40 時間となっており、本学の学生の睡眠時間が特に短いということはありませんでした。

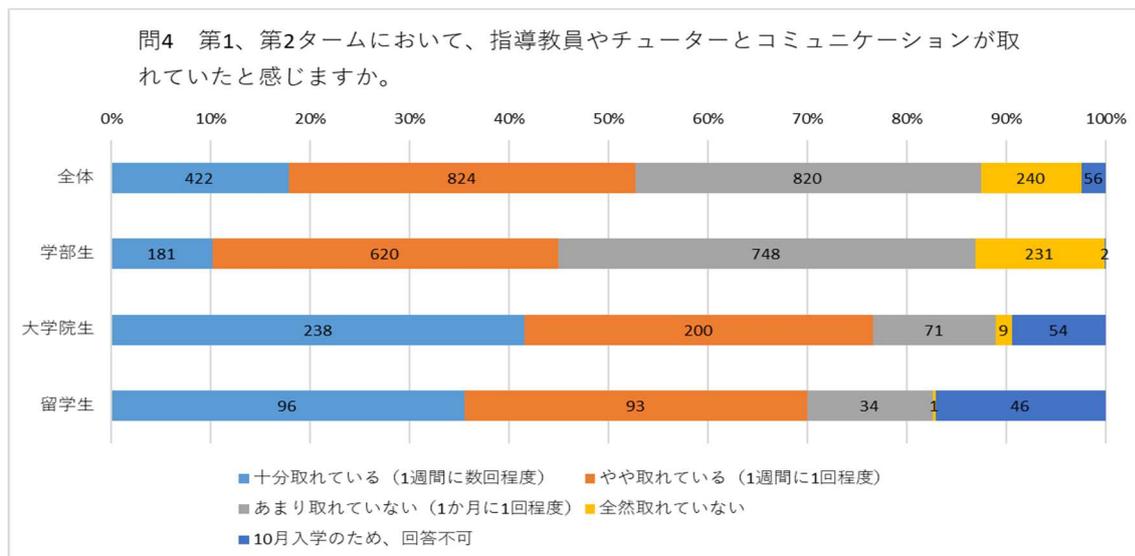
注：「学生の健康白書 学生と保健管理スタッフのためのダイジェスト版 2019」(<http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/11/hakusho2019.pdf>)

●問3 現在、定期的に運動(1回30分程度)をしていますか。



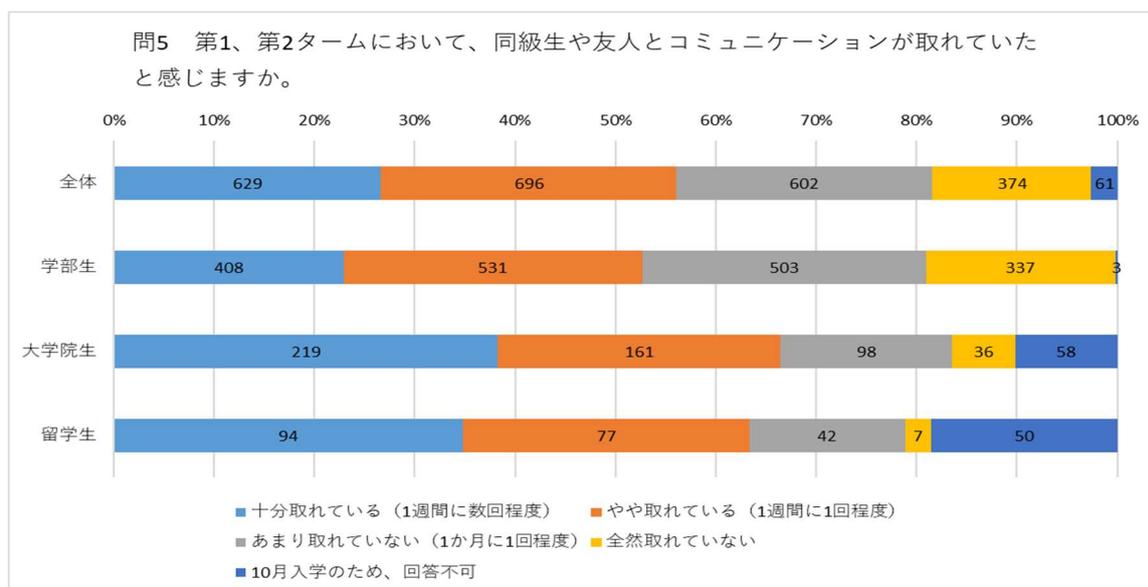
運動習慣がある学生(「毎日している」「週4～5日程度」「週2～3日程度」「週に1日程度」)は全体で70%となりました。「学生の健康白書」(上記注)では、運動習慣のある大学生は男性 67.77%、女性 53.61%となっています。学部生に比べ大学院生は定期的に運動(1回30分程度)をしている者の比率が少なくなっています。

●問4 第1, 第2タームにおいて、指導教員やチューターとコミュニケーションが取れていたと感じますか。



学部生において、コミュニケーションが取れている（「十分取れている（1週間に数回程度）」「やや取れている（1週間に1回程度）」）という回答は全体で45%、半数以上の54%の学生がコミュニケーションが取れていない（「あまり取れていない（1か月に1回程度）」「全然取れていない」）と回答しました。大学院生においては、コミュニケーションが取れているという回答が7～8割に達し、学部生よりも教員とコミュニケーションは取れていました。留学生においては、83%はコミュニケーションが取れていると回答しました。

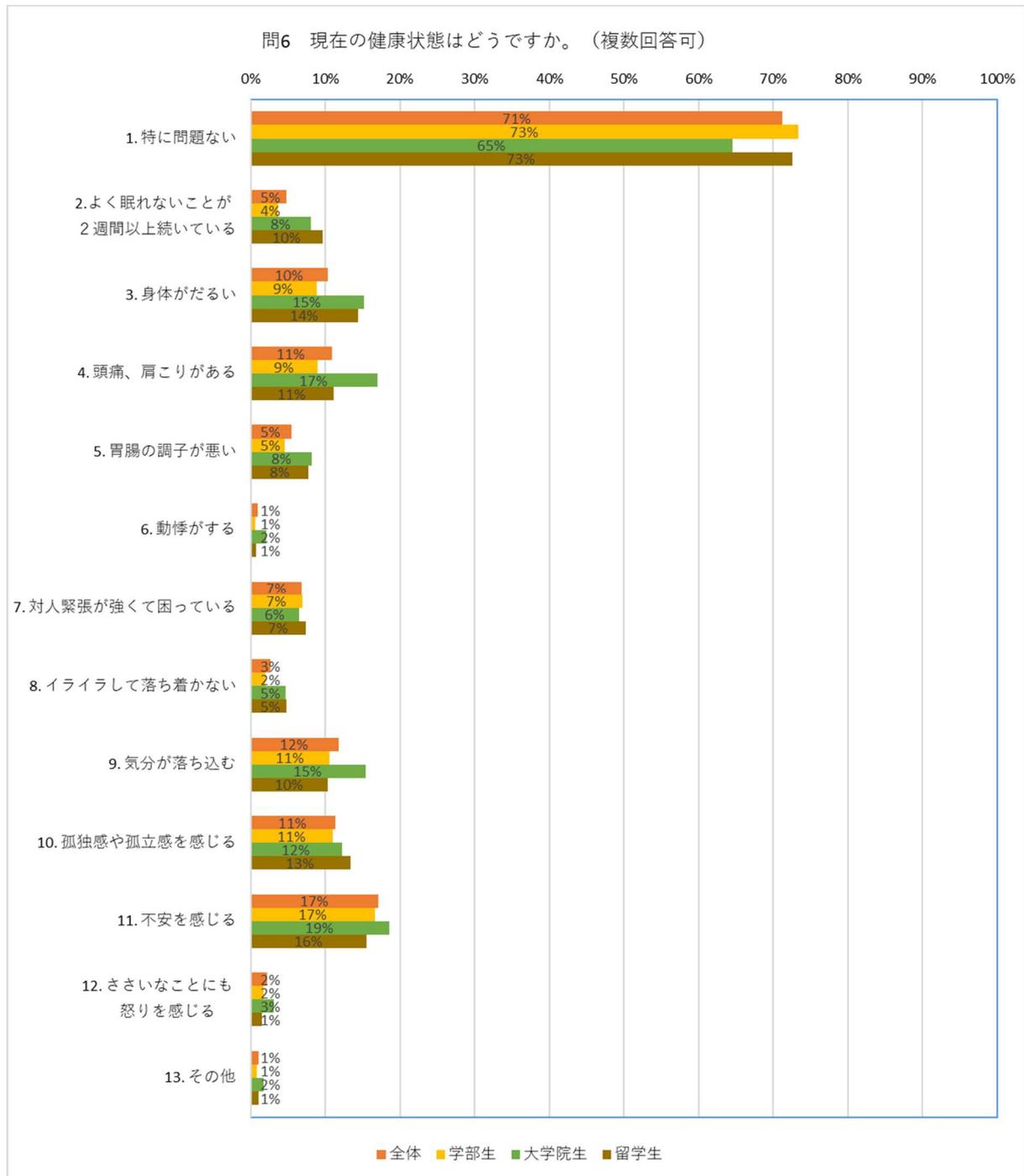
●問5 第1, 第2タームにおいて、同級生や友人とコミュニケーションが取れていたと感じますか。



学部生では、「全然取れていない」という回答が19%、「あまり取れていない（1か月に1回程度）」と合わせると47%となりました。一方、大学院生と留学生においては、学部生よりもコミュニケーションが取れている（「十分取れている」「やや取れている」）という回答が多いですが、「あまり取れていない」「全然取れていない」と回答している学生も大学院生で23%、留学生で18%いました。新型コロナウイルスによる人との接触の制限の影響は、特に学部生において大きく現れ

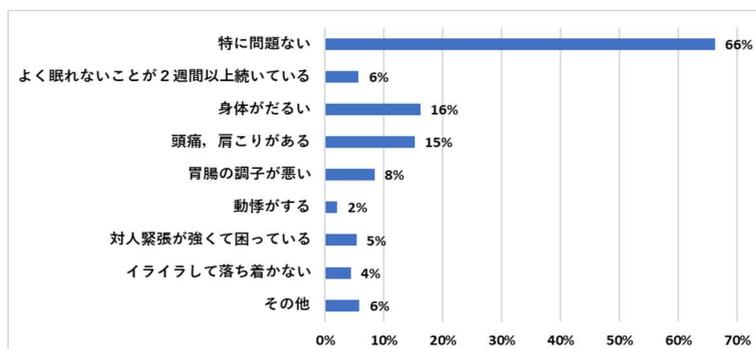
ました。

●問6 現在の健康状態はどうか。(複数回答可)



(参考) 平成30年度学生生活実態調査(広島大学)

現在の健康状態はどうか。(複数回答可)

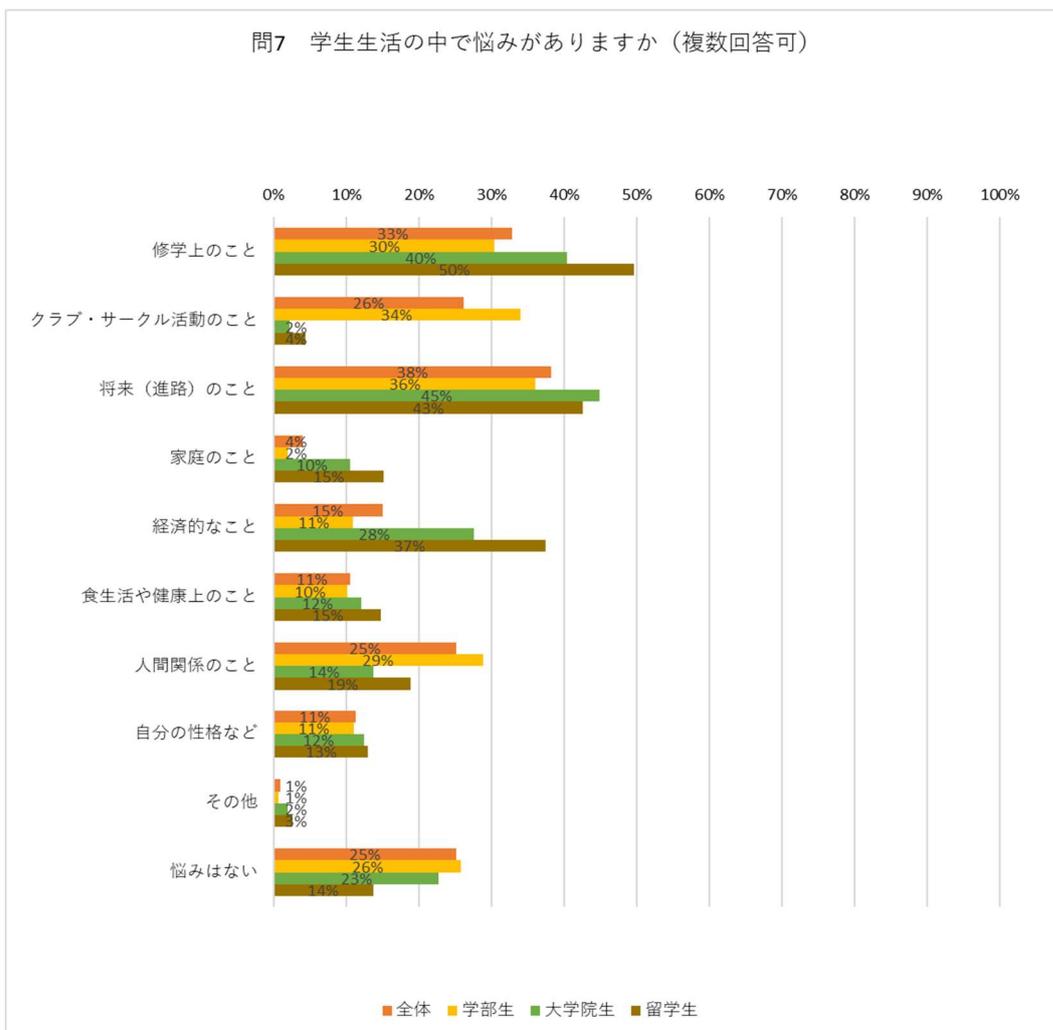


多くの学生は「特に問題ない」と回答しましたが、「身体がだるい」(10%)、「頭痛, 肩こりがある」(11%)と回答している学生もいます。これらの割合は、コロナ禍以前の平成30年度の学生生活実態調査の結果とほぼ同じでした。

睡眠については、全体で5%の学生が「よく眠れないことが2週間以上続いている」と回答しました。

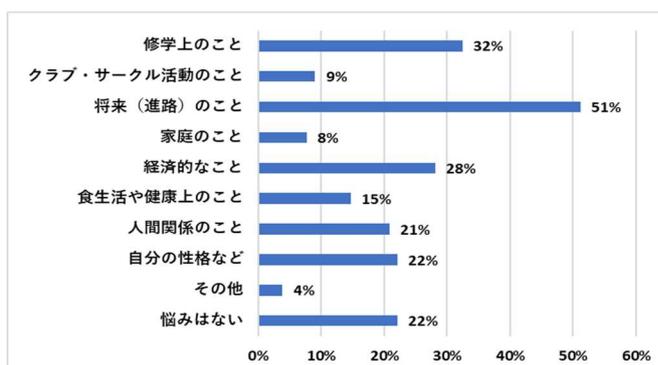
精神面では、全体の12%が「気分が落ち込む」、11%が「孤独感や孤立感を感じる」、17%が「不安を感じる」と回答しており、特に大学院生で多い傾向があります。

●問7 学生生活の中で悩みがありますか（複数回答可）。



(参考) 平成30年度学生生活実態調査（広島大学）

学生生活の中で悩みがありますか。（複数回答可）



学部生においては、学生生活の悩みについて多い順に「将来（進路）のこと」、「クラブ・サークル

活動のこと」、「修学上のこと」、「人間関係のこと」という結果でした。また、平成30年度の学生生活実態調査と比べると、「課外活動（クラブ・サークル活動）のこと」が増加し、「経済的なこと」「自分の性格など」は減少していました。

大学院生と留学生においては、半数近い学生が「修学上のこと」（大学院生40%、留学生50%）及び「将来（進路）のこと」（大学院生45%、留学生43%）について悩んでいました。経済的な悩みを抱えている学生は、学部生（11%）よりも大学院生（28%）、留学生（37%）で多いという結果となりました。

#### （概要と対応）

- ・学部生、特に新入生や編入学生（今年度入学）の半数以上が、教員とのコミュニケーション、同級生や友人とのコミュニケーションが十分に取れていないと感じていました。学部長、指導教員やチューターとこのアンケート結果を共有し、学生とのコミュニケーションをより一層密に、かつ継続的に取るようにしました。
- ・学生生活の悩みについて「将来（進路）のこと」「クラブ・サークル活動のこと」をあげた学生が多かったという結果でした。学生が、学部や研究科の枠を越えて、大学での学修や生活上の悩みを同級生や上級生に気軽に話せる機会となるよう、新入生同士、上級生と新入生を交えた懇話会を開催しました。今後もこのような企画を定期的で開催し、日ごろの不安や疑問等について気軽に相談できる機会を設けます。また、各種相談窓口（保健管理センター、教育学習支援センター、ピアサポートルーム等）を積極的に利用してもらえよう、繰り返し情報を提供します。
- ・健康状態については、不安（17%）、孤独感や孤立感（11%）、気分の落ち込み（12%）が認められます。また、睡眠については、時間（長さ）だけではなく質やリズムも大切です。自粛生活が長いと、生活リズムの乱れから様々な自律神経症状が出現することもあります。こころや体の健康管理については、保健管理センターがサポートします。保健管理センターで実施している対処法についても広く紹介していきます。

広島大学では、今後も学生の皆さんが安全に、また安心して大学生活を送り、十分な学修の成果を挙げられるよう、最大限努めてまいります。